

第五十五表 渡島國大島噴火

麓ニ居住スル舊土人谷伊太久禮外二名ノ實見シタル處岩石轉落ノ際數多ノ岩石ニ突當リ其音響漸ク烈シク爲ニ燒土ノ黑煙ノ如ク立上リタルニ過ギスト云ヘリ。(明治三十六年七月三日小樽新聞)

年月日

同上 (西曆)

記事

寛保元年七月十三日

一七四一年八月二十三日

根部田熊石海嘯ノ時大島ノ山噴火シ灰降り松前晝闇キコト夜ノ如シ。(北海道志)

曉噴火シ、松前郡ネプタ村ヨリ爾志郡熊石村ニ至ルノ海岸海嘯ヲ生ジ家屋流失シ溺死千餘人灰降りテ白晝暗夜ノ如シ。(神保博士「北海道地質報文」)

寛保元年辛酉秋七月十三日乙亥、松前大島火、迄二十五日丁丑、天色暗濛、不辨日夜、十八日庚辰夜、海嘯高三十丈、響如雷霆、人畜死者夥矣、是時形如鯨者、長十七丈、六七頭揚陸云。(弘賢覺書追加引ニ鳥根正齋時世錄ニ)

寛保元年辛酉七月十三日奥州松前大島燃ル、同十四日十五日一天暗冥ニシテ晝夜ヲ分タズ、同十八日曉ニ津浪高キコト二十餘丈、人家二十餘軒ヲ漂没シテ人馬死亡スルコト甚多シ。(續日本王代一覽)

松前灰降ル平地三寸餘。(北道道志) 大島噴火ナランカ。
灰降ル灰中赤白毛アリ。(同上) 同上

同 元年十二月
同 二年四月

一七四二一
一七四二五